

HERPES. 2 : No4, 7, 1998.

- 5) 小西 徹：光誘発性・光過敏性てんかんの臨床特徴. 富山県小児科医会報 23:22-25, 1998.
- 5) 小西 徹：講演「TV ゲーム、アニメとこどもの発達」. 富山市児童館, 1998, 7, 富山.
- 6) 小西 徹：講演「発達障害児のよりよい活動に向けて. 98障害児の社会参加と自立・就学啓発の集い, 1998, 10, 富山.
- 7) 松沢純子, 増子香織, 本郷和久, 八木信一, 小西 徹, 宮脇利男, 森島恒雄：再発時に顕著な不随意運動を呈したヘルペス脳炎の1例. ヘルペス感染症研究会機関誌 2:7, 1998.
- 8) 足立雄一：ヒト化抗IgE抗体療法. 小児科医のためのWhat's New?. アレルギー 1:8, 1998.

精神神経医学

教授	倉 知 正 佳
助教授(前)	齋 藤 治
助 教 授	鈴 木 道 雄
講 師	江 守 賢 次
講 師	黒 川 賢 造
助 手	住 吉 太 幹
助 手(前)	村 田 昌 彦
助 手(前)	岡 部 彰 人
助 手	上 原 隆 博
助 手	殿 谷 康 文
助 手	萩 野 宏 文
助 手	山 下 委 希 子

◆ 著 書

- 1) 倉知正佳：精神と行動の症候学—神経心理学からみた精神症候論. 「臨床精神医学講座」, 松下正明総編, 浅井昌弘, 牛島定信, 倉知正佳, 小山司, 中根允文, 三好功峰編, 41-56, 中山書店, 東京, 1998.
- 2) 鈴木道雄：神経化学と精神医学. 「神経精神医学」秋元波留夫・山口成良編, 76-94, 創造出版, 東京, 1998.

◆ 原 著

- 1) Suzuki M., Hurd Y.L., Sokoloff P., Schwartz J.-C., and Sedvall G.: D3 dopamine receptor mRNA is widely expressed in the human brain. Brain Res., 779:58-74, 1998.
- 2) Suzuki M., Sun Y.-J., Murata M., and Kurachi M.: Widespread expression of Fos protein induced by acute haloperidol administration in the rat brain. Psychiatr. Clin. Neurosci., 52:353-359, 1998.
- 3) Emori K., Katsumori H., and Minabe Y.: Changes in paired-pulse depression during the triggering of seizures by 2Hz dentate gyrus stimulation: effect of the kindling. Brain Res., 776:250-254, 1997.
- 4) Sumiyoshi T., Yotsutsuji T., Kurachi M., Itoh H., Kurokawa K., and Saitoh O.: Effect of mental stress on plasma homovanillic acid in healthy human subjects. Neuropsychopharmacology, 19:70-73, 1998.
- 5) Hagino H., Tabuchi E., Kurachi M., Saitoh O., Sun Y., Kondoh T., Ono T., Torii K.: Effects of dopamine D2 receptor agonist

and antagonist on brain activity in the rat assessed by functional magnetic resonance imaging. *Brain Res.* 813:367-373, 1998.

- 6) Sun Y.-J., Suzuki M., Kurachi T., Murata M., and Kurachi M.: Expression of Fos protein in the limbic regions of the rat following haloperidol decanoate. *Brain Res.*, 791:125-136, 1998.
- 7) 鈴木道雄, 孫 月吉, 倉知正吉, 麻生光男, 野原 茂, 濱岡 格, 殿谷康博, 黒川賢造, 齋藤 治: 分裂病型障害患者の脳の形態について: 分裂病患者との比較—頭部X線CTによる予備的検討—. *北陸神経精神医学*, 11: 19-24, 1997.
- 8) 山下委希子, 大星光史: 『句歌の会』活性化への試み—俳句をつくる過程の段階的教示の効果—. *精神科治療学*13(1): 83-87, 1998.
- 9) 関 京子: 精神分裂病患者の認知障害と作業療法—臨床的側面から—. *作業療法ジャーナル*, 32: 1017-1021, 1998.

◆ 総 説

- 1) 倉知正佳: 精神分裂病の前駆状態の診断. *最新精神医学*, 3 (1): 33-38, 1998.
- 2) 倉知正佳: 精神分裂病の認知・症状・脳画像と発症予防へのストラテジー, *臨床精神病理*, 19(1): 3-18, 1998.
- 3) 倉知正佳: 分裂病の発病モデルと認知障害, *精神医学レビュー*, 27: 36-46, 1998.
- 4) 齋藤 治 (1998): P300と遺伝. *精神医学レビュー* No.28「精神疾患と遺伝」, *ライフ・サイエンス*, 141-146
- 5) 黒川賢造, 濱岡 格, 殿谷康博, 倉知正佳, 鈴木道雄: 精神分裂病の経過類型. *精神科治療学*, 13(10): 1207-1213, 1998.
- 6) 上原 隆, 倉知正佳, 住吉太幹: 精神分裂病の神経発達障害仮説に基づく動物モデル. *脳の科学*, 20: 185-194, 1998.

◆ 学会報告

- 1) Sumiyoshi T., Ichikawa J., and Meltzer H. Y.: Effect of streptozotocin-induced diabetes on vacuous chewing and dopamine receptors in rats: a preclinical study on the etiology of the increased incidence of tardive dyskinesia in patients with diabetes. In Symposium "Young Delegate Oral Presentation Evening-Clinical and Biological Effects of Stopping Antipsychotic Medication"; the 21st Congress of Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum, 1998, 7. 15. Glasgow, Scotland, U.K.

- 2) Sumiyoshi T., Yotsutsuji T., Kurachi M., Itoh H., Kurokawa K., and Saitoh O.: Differential effects of mental stress on plasma homovanillic acid levels in patients with schizophrenia and control subjects. 21st Congress of Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum, 1998, 7. 14 (PT070 87). Glasgow, Scotland, U.K.
- 3) Tajiri K., Emori K., Murata M., Suzuki M., and Kurachi M.: The effects of intracerebroventricular administration of NMDAR1 antisense DNA on midbrain dopamine neuronal activity. 28th annual meeting society for neuroscience, November, 1998, Los Angeles.
- 4) 江守賢次, 岡部彰人, 田仲耕大, 田尻浩嗣, 倉知正佳: アレピアチン®の細粒から10倍散への剤形変更に伴う血中濃度の変化. 第32回日本てんかん学会, 1998, 10, 横浜.
- 5) 黒川賢造, 濱岡 格, 殿谷康博, 鈴木道雄, 麻生光男, 野原 茂, 齋藤 治, 倉知正佳: 精神分裂病の経過類型 (ICD-10) と頭部X線CT所見との関連について. 第20回日本生物学的精神医学会, 1998, 3, 北九州.
- 6) 田尻浩嗣, 江守賢次, 村田昌彦, 鈴木道雄, 倉知正佳: NMDAR1アンチセンスDNA脳室内投与のラット中脳ドーパミン細胞発火に与える影響. 第20回日本生物学的精神医学会, 1998, 3, 北九州.
- 7) 住吉太幹, 四衢 崇, 倉知正佳, 伊藤博子, 黒川賢造, 齋藤 治: 精神的ストレスの血漿中ホモバニリン酸濃度に対する影響—健常者での検討—. 第20回日本生物学的精神医学会, 1998, 3, 北九州市.
- 7) 萩野宏文, 田淵英一, 倉知正佳, 齋藤 治, 小野武年, 近藤高史, 鳥居邦夫: Functional magnetic resonance imaging (fMRI) 法で測定したbromocriptineのラット脳活動に及ぼす影響. 第20回日本生物学的精神医学会, 1998, 3, 北九州.
- 8) 野原 茂, 鈴木道雄, 松井三枝, 山下委希子, 松本香里, 齋藤 治, 倉知正佳, 瀬戸 光: 精神分裂病患者における単語記憶課題 (Gold) 遂行時の局所脳血流の変化—SPECTと三次元MRIとの重ね合わせによる再検討—. 第20回日本生物学的精神医学会, 1998, 3, 北九州.
- 9) 四衢 崇, 齋藤 治, 萩野宏文, 森 光一, 倉

- 知正佳, 瀬戸 光: 高解像度3-D MRIを用いた精神分裂病患者における側脳室の定量的検討—予備的報告—. 第20回日本生物学的精神医学会, 1998, 3, 北九州.
- 10) 麻生光男, 鈴木道雄: 精神分裂病の異種性(変異性)—脳画像の観点から—. 第94回日本精神神経学会総会, 1998, 5, 宜野湾.
 - 11) 松本香里, 長谷川雄介, 倉知正佳: Mini-Mental Scale改訂版の作成と信頼性・妥当性の検討. 第18回日本精神科診断学会, 1998, 10, 東京.
 - 12) 松本香里, 山下委希子, 松井三枝: 記憶範囲課題における再生方向の効果—モダリティ比較および健常者と分裂病患者の比較—. 第17回日本基礎心理学会, 1998, 11, 東京.
 - 13) 石川健介: 精神科入院患者に対する歯磨き行動の形成日. 第16回本行動分析学会, 1998, 8, 茨城.
 - 14) 石川健介, 山下委希子, 倉知正佳: 青年期の精神科患者におけるMMPIプロフィール(1). 第17回日本心理臨床学会, 1998, 9, 名古屋.
 - 15) 殿谷康博, 倉知正佳, 齋藤 治, 黒川賢造, 松井三枝: 精神分裂病患者における図形再生と探索的眼球運動について—横S図版を用いての検討—. 第140回北陸精神神経学会, 1998, 6, 金沢.
 - 16) 山下委希子, 四衛 崇, 殿谷康博, 松田公夫, 江守賢次, 倉知正佳, 大星光史: 1分裂病患者の改善過程に伴う俳句の変化. 第139回北陸精神神経学会, 1998, 1, 金沢.
 - 17) 山下委希子, 石川健介, 倉知正佳: 青年期の精神科患者におけるMMPIプロフィール(2). 第17回日本心理臨床学会, 1998, 9, 名古屋.
 - 18) 山下委希子, 松井三枝, 倉知正佳: 単語記憶課題(Gold)日本語版作成の試み—健常者における検討—. 第141回北陸精神神経学会, 1998, 9, 金沢.
 - 19) 高橋 努, 黒川賢造, 江守賢次, 殿谷康博, 野原 茂, 四衛 崇, 倉知正佳: 幻覚妄想状態を呈したPrader-Willi Syndromeの1例. 第139回北陸精神神経学会, 1998, 1, 金沢.
 - 20) 高橋 努, 黒川賢造, 鈴木道雄, 倉知正佳: 健常者におけるNMDAR1遺伝子の多型について. 第141回北陸精神神経学会, 1998, 9, 金沢.

◆ その他

- 1) 齋藤 治(1998): 指定討論: 精神分裂病の陰性症状に対する精神生理学的理解—P 300所見からのヒント—. 臨床精神病理, 19(2): 163-167.
- 2) 齋藤 治(1998): 自閉症の小脳異常: 包括的

神経心理学への道. 電子情報通信学会「思考と言語」研究会, 11月, 東京.

- 3) 齋藤 治・萩野宏文・四衛崇・森光一・鈴木道雄・倉知正佳・瀬戸 光・清水康夫・本田秀夫・吉田栄子・E.Courchesne.: 発達障害における情動, 記憶, および認知の神経機構: 神経画像研究. 平成10年度厚生省精神・神経疾患研究報告会, 1998, 12, 東京.
- 4) 黒川賢造, 四衛 崇, 齋藤治, 倉知正佳: 強迫症状を呈する精神分裂病について. 第2回日本精神障害予防研究会, 1998, 3, 高知.
- 5) 石川健介: 慢性精神分裂病患者に対するSocial Skills Trainingにおける般化を促すための社会的刺激の利用. 社会環境研究(金沢大学社会環境科学研究科紀要) 3: 55-62, 1998.